

令和8年6月定例会一般質問

6月4日、5日に行った一般質問では、8人の議員が質問しました。

また、傍聴者は延べ5人でした。「一般質問」は、各議員の質問や提案等により、執行機関の見解や考え方を明らかにするもので、大切な「政策論争の場」です。

なお、次ページからの一般質問の要旨は、質問者自身でまとめています。

一般質問の会議録は、各議員のページにあるQRコードからご覧いただけます。



議
会

No. 282



1 湯本 直木 ゆもと なおき	① 堆肥センターの長寿命化計画の見直しは ② 第7次総合振興計画の重点プロジェクトの実施状況は ③ 園児の主食持参の見直しのその後は
2 山本 隆樹 やまもと たかき	① 地域公共交通について ② 「住みたい田舎」更なる取組みを
3 丸山 邦久 まるやま くにひさ	① 観光ビジョンの策定とその後の進捗について ② 渇水対策について ③ 地域おこし協力隊の定住率について ④ 空き家・空き地取得者に対する条例制定について
4 江田 宏子 えだ ひろこ	① 学校・保育園の給食について ② 高齢者福祉の法改正による影響と村の施策について ③ ファームス木島平の再整備方針について
5 湯本 行浩 ゆもと ゆきひろ	① 村におけるハラスメント防止と適正な組織運営について ② 人口減少を見据えた今後の村づくりについて
6 山崎 栄喜 やまざき えいき	① 道の駅再整備について ② 集落の集会施設の改修等に対する補助について ③ ごみ袋の記名廃止について ④ 生涯学習の推進について
7 山浦 登 やまうら のぼる	① 一般会計予算編成の疑問点を問う ② 中東戦争による物資不足、物価高騰対策について ③ 予備自衛官等兼業特例法について
8 関 達夫 せき たつお	① 憲法公布80年改正は村民の納得する説明が大事 ② 生活環境保全のコストはどうあるべきか ③ 奨学金貸付制度は誰の為か

議会に対するご意見
をお聞かせください。

電 話

☎0269 (82) 3111
(内線170)

E-mail

gikai@vill.kijimadaira.lg.jp

発行：木島平村議会
編集：議会だより編集委員会



敷かれたレールの上だけを進むのではなく 臨機応変に柔軟な対応を

湯本 直木 議員



一般質問会議録

堆肥センターの長寿命化の見直しはしないのか

質問

今年度予算で堆肥センターの長寿命化計画に総額1億4586万円が計上されている。これの検討委員会を堆肥利用者アンケートの結果を踏まえたうえで、令和8年9月を目標に進めるとの回答があったが、アンケートは実施したのか、その後の進捗状況は。

産業課長

5月下旬に対象者へ発送した。実施時期が遅れたことについてはお詫び申し上げる。

再質問

今後のスケジュールは。

産業課長

7月中には取りまとめたい。

再々質問

結果についての公表は。

産業課長

公表については現段階では予定していないが、その内容について議会の皆様とは情報を共有させていただきたいと考えている。

質問

令和10年度を目標に、堆肥センターの次の計画について村の考え方を示したいとの事だが、次の方向を決めるのに2年も必要なのか。

村長

新しい施設については、用地の選定、処理方法の選定、概算事業費の把握、補助金等の財源確保など、多くの検討事項があることと、地域との合意形成が大前提になるので、令和10年度を目途に整備方針を示すこととしている。

第7次総合振興計画の重点プロジェクトの実施状況は

質問

今回の計画への取組みとして、特に力を入れて分野横断的に取り組む4つのテーマを重点プロジェクトとして設定し、重点的に推進するように計画がされているが、村長の現段階での体感と評価は。

村長

第7次の総合振興計画に掲げる基本目標「多様な産業を活かす、活力を生み出す」についての質問だが、

農業、観光、商工業の本村の基幹産業を相互に連携させながら、地域経済の活性化と持続可能な村づくりを進めることを目指している。

村は人口減少や担い手不足、物価高騰など厳しい課題がある一方で、本村の自然環境や農産物、観光資源に対する評価や期待は高く、地域資源を生かした取組みをさらに発展させていく必要があると感じている。

園児の主食持参の見直しとその後は

質問

12月議会で年度末までにはアンケート調査を実施するとの答弁があったがアンケート調査は実施したのか。

村長

保護者に対してのアンケートは、3月に実施している。対象者は95人、回答率は69・5%。

「主食持参に負担を感じている」が45・5%、「負担に感じていない」が40・9%、「有料になると希望しない」が75・8%となった。

主食費の試算は無償提供した場合、園児一人当たり年間の費用が約

1万4千円と見込んでいる。総額で80万円ほどになる。このアンケートの結果から、無償での主食提供を希望する割合が多いこと、保護者の負担軽減、持参することによって食中毒などの衛生面や食育などの観点から、来年度、無償での主食提供について検討を進めたいと考えている。

最後に

来年度から実施をしていく方向で話が進んでいるようだが、保育園の受け入れ対応を充実させるということと、村が常々推し進めている木島平型教育のスタートの地点での優位性を図り、ひいては村への移住定住政策の促進の一環になる、そこにつながることも考えられる。

併せて、近年園児の人数が激減している中で、職員の適正配置についても議論がある。

ある意味、雇用の場の確保につながるものも考えられるので、これについては前向きに実施をするということなので、ぜひ実施をして効果を得ていただきたい。



地域公共交通は地方創生の基盤

山本 隆樹 議員



一般質問会議録

地域公共交通について

質問

木島平村の地域公共交通であるデマンド交通「ふう太号」及びシャトル便の現状と課題は。

建設課長

村の公共交通として認知度も上がり、令和7年度のデマンド交通の利用者は5263人で、前年対比110%、シャトル便の利用者は5472人で前年対比122%と年々増加している。

課題として、物価上昇に伴う人件費や燃料等の高騰もあり、委託料が増加している。

運行本数の適正化や運営効率の向上によるコストの圧縮等の検討とその他、多様な交通ニーズに 대응していくことが課題だと考えている。

質問

飯山市では、地域住民及び観光客の移動手段の確保と利便性向上を目的とした「いいやま相乗りタクシー」の実証実験を実施し、令和8年10月からの本格運行が決定。運行地域として飯山市、野沢温泉村、木島平村に設定することと

なる。

「いいやま相乗りタクシー」の概要、また木島平村デマンド交通「ふう太号」との兼ね合いは。

建設課長

飯山市は、高齢者等交通弱者の移動の自由確保と経済負担軽減、観光二次交通、交通空白地における効率的な運行等を目的に「いいやま相乗りタクシー事業」を実施する。

一般市民の利用者は、相乗りが発生すると人数や距離など条件によるが20%から30%の割引になるため、交通費の軽減につながる。

また、実施エリアとして木島平村の7か所（木島平クリニック、木島平診療所、農林高校、道の駅ファームス木島平、木島平観光交流センター、「The きじまスノーパーク、スノーリゾートロマンスの神様」が目的の地となっている。

木島平村の方が利用する場合に、目的の地から、設定されている目的の地までは利用できる。

「いいやま相乗りタクシー」はあくまでもタクシーであり、村のデマンド交通との兼ね合いはない。

質問

村の持続可能な公共交通の進め方は。

建設課長

既存交通のデマンド交通、シャトル便等の利用が増加している部分の検証を行い、近隣市町村との連携や新たな移動手段であるライドシェアや相乗りタクシーについて、村の公共交通会議で、関係団体と引き続き協議の検討を続けていきたい。

「住みたい田舎」更なる取組みを

質問

宝島社発行の雑誌「田舎暮らしの本」の中の住みたい田舎ベストランキングで、木島平村は常に村の部門として上位にランクし続けている。

受入れ側の対応として耕作放棄地を活用した田畑のオーナー制度の取組みはできないか。

産業課長

畑の活用については、管理面で難しい。農業体験や農村交流への関心は高まっており、既存の水田オーナー制度の拡充など、本村の実情に合った形で関係人口の拡大につながる。

る制度の拡充など、本村の実情に合った形で関係人口の拡大につながる取組みを研究していく。

質問

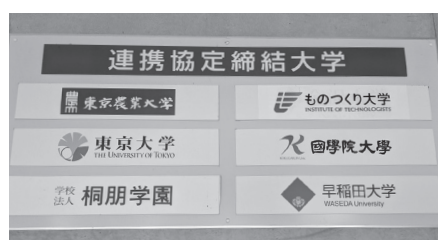
更なる連携協定締結大学との交流を。

村長

大学との連携協定による自治体側のメリットは、大学が持つ知識や専門性を活用することができる。大学側は最新の研究成果を持っており、特定の分野における知識が豊富。これらを自治体が活用することで、地域の課題解決に向けた新たな視点や解決に向けたヒントを得ることができる。より効果的な政策立案や施策の実施が可能になる。

今後とも、

大学との連携により、地域の子どもたちの教育面や地域との連携、継続的な交流、活性化につなげていくよう進めて行きたい。



村が連携協定を結んでいる大学



条例は、法律の規定にない事項を補うための 地方自治体が定めるルールです。

丸山 邦久 議員



一般質問会議録

観光ビジョンの策定と その後の進捗について

質問

村は、令和8年2月に観光ビジョン「暮らしまると、うまい村。木島平」を策定した。

その後、今日まで動きが見えない。2月から今までの行政の取り組みと今後のスケジュールを示してほしい。

産業課長

観光ビジョンは、3月10日に議会に説明し、3月23日までパブリックコメントを実施した。

現在は観光ビジョンに基づく具体的な行動計画（アクションプラン）の策定を9月末を目標に進めている。

村民に対する周知を行ってこなかった。お詫びし、今後ふう太ネット等を活用し周知を図っていききたい。

質問

「鉄は熱いうちに打て」という。ビジョン策定から8か月では時間がかかり過ぎではないか。

産業課長

ご指摘を踏まえ、前倒しをできるように進めてまいります。

渇水対策の今後は

質問

今年は降雪量が少なく、今後の降雨量によっては水不足になる可能性が高い。

昨年の9月議会でも取り上げたが、この9か月間にどのような検討をしたか説明を求める。

村長

特に渇水が懸念される下中村地区と大塚沖地区を対象に検討を進めてきた。その結果、既存排水路から用水をポンプアップする方法が最も現実的かつ効果的であるとの結論に至っている。

下中村地区の関係者へ検討結果を説明し、理解をいただいた。

大塚沖地区は、国の「水土里ビジョン」を活用し、施設維持管理計画を策定する中で揚水ポンプの機能強化やパイプラインの複線化を検討していくよう働きかけている。

質問

農業者は毎年渇水を心配している。いつまでに実現するという目途はあるか。

産業課長

下中村地区は、受益者の合意形成ができ次第、事業化に向けた検討を進めていきたい。

大塚沖地区は水土里ビジョンの計画策定期間が令和9年度までになっている。この2年間で計画を練って、事業化に向けた検討に入りたい。



子孫にこの景色を伝えるために、水の確保は必須条件です。

空き家・空き地取得者に対する 条例制定について

質問

本村でも空き地や空き家を取得

する外国人が増えている。

国の制度の違い・文化の違い・習慣の違いによってトラブルに発展しているケースがあると聞いている。

権利と義務を明確にしてルール化する、所有者管理条例を作っていく必要があると考えている。村にそのような考えはあるか。

産業企画室長

相互理解の上、この地域のルールを守ってもらう仕組みづくりは、非常に重要であると考えている。

現在は条例を制定するのではなく、今ある仕組みにいかにして実効性を持たせることが最優先課題だと考えている。

質問

ルールというのは先に作っておくべきだと考えるが、村長の考えはどうか。

村長

全てを網羅した条例の制定は難しい。

このほか地域おこし協力隊の定住率の低さについて質問しました。



未来を見据え 誰もが心豊かに暮らせる村づくりを

江田 宏子 議員



一般質問会議録

地元食材と村の独自支援で
安全で満足感のある給食の継続を

質問

- ① 地元農産物の供給体制と出荷者の拡大は。
- ② 保育園給食での地元農産物の活用と供給体制は。
- ③ 国・県からの交付金による無償化と物価高騰下での村独自の支援や取組みは。
- ④ 食の安全への考え方は。

産業課長

① 農業振興公社との連携で、集落支援員による集荷体制を整備。
地元農産物の利用拡大を進める。

子育て支援課長

- ① 高齢化による出荷者の減少は深刻な課題。栄養教諭や振興公社と相談し、対応を研究したい。
- ② 米は全量地元産、きのこや季節の野菜等を活用。生産者が直接搬入している。「給食応援隊」のような取組みも研究したい。
- ③ 今後も物価高騰分を保護者負担に求めず、給食の質を低下させない支援の継続が重要と考える。
- ④ 村内・県内・国内産を優先し、安全基準を満たした食材を使用。加



移動支援に欠かせないデマンドバス

工食品も国産を優先・無添加を指定。子どもの健康を守るため、食品の安全性は極めて重要と認識。
高齢者が安心して暮らし活躍できる地域に

質問

- ① 介護制度の見直しによる影響と、「介護人材の確保」等、現状の認識と見通しは。
- ② 一人暮らし高齢者や身寄りのない方への支援や、地域での支え合いの仕組みづくりは。

民生課長

① 法改正は、今後の状況を注視し、情報収集と課題整理を進める。
介護人材の確保は喫緊の課題。
国・県の情報収集に努め、課題解決に向けた対策に取り組む。

② 見守りや買い物・移動支援などを継続するとともに、地域包括支援センターを中心に対応していく。
交通や住まいなど、関係部署との連携で、高齢者が安心して暮らせる体制づくりを進める。
シルバー人材センターやボランティア活動などの活用で、高齢者の社会参加や活躍できる機会づくりを支援していく。

ファームス木島平は 地域の未来を育む拠点に

質問

- ① 今後、どのような役割を担う施設として整備していくか。
- ② 収支だけでは量れない役割もある。「経済効果」や「地域への波及効果」など、現在の評価と今後の見込みは。
- ③ 現在の再整備方針で、ファームスに期待される「地域経済循環」「関係人口創出」「地域のにぎわ

い」「村民の居場所」などの機能を十分達成できると考えているか。
④ 「地域づくり」や「皆で育てる道の駅」という視点で、村民参加型の構想づくりを進める考えは。

村長

① 農業振興や地域交流の拠点として、また、木島平ブランドのショーケース機能として、役割や位置づけを明確にしたい。

産業企画室長

② 農産物販売や飲食を通じた販路確保や所得向上、村外者の来訪機会の増、地域のにぎわい創出などが挙げられる。今後は、現在進めているブランド再構築の中で、より検討を進めたい。

③ 達成するには施設を整備するだけでなく、運営方法や地域との連携が重要。財源や既存施設の活用など将来的な観点から整備していくことを検討したい。

村長

④ 地域に必要なとされる施設とするため、事業者や利用者、地域住民など幅広い意見を取り入れていく。現在進めているブランド再構築事業の中で、村民の皆さんに幅広く意見をいただく場を設けていきたい。



安心して暮らし続けられる村を目指して

湯本 行浩 議員



一般質問会議録

村におけるハラスメント防止と適正な組織運営

質問

職場におけるハラスメントやコンプライアンスは、個人の尊厳や安心して働ける環境だけでなく、組織への信頼や行政サービスの質にも関わる重要な課題である。

村職員に対する防止体制や相談体制、研修の実施状況、相談事例への対応、今後の課題や体制整備について。

また、委託先や指定管理者など村と関わる事業者への対応や、地域全体への意識啓発についての考えは。

総務課長

村では令和3年にハラスメント防止要綱を制定し、相談窓口の設置や職員研修を実施している。近年は外部講師によるハラスメント・コンプライアンス研修を毎年または隔年で行い、相談窓口は総務課総務係が担当している。

ここ数年の相談件数は数件で、双方への面談など適切に対応し、その後の再発は確認されていない。職員への理解は継続的な研修や人

事評価制度における上司との面談を通じて深め、管理職は日頃から職員の体調や変化に気を配り、相談しやすい職場づくりを求めている。

今後はカスタマーハラスメントへの対応が課題であり、対応マニュアルの整備や相談体制の充実を進める。委託先や指定管理者については各組織での対応を基本としている。

村民に対しては広報などを通じてハラスメント防止やコンプライアンスの啓発を進めていく。

人口減少を見据えた今後の村づくり

質問

人口減少と少子高齢化が進む中、人口増加だけでなく人口減少を前提とした持続可能な村づくりが重要である。

人口の見通しや地域への影響、行政サービスや集落維持、除雪体制、空き家・移住定住対策、農業・観光振興など今後の方向性は。

村長

人口は推計を上回るペースで減少しており、少子化対策を最重要課題として取り組む一方、人口減少がそのまま村の衰退につながらないよう

施策を進める。

人口減少により、地域行事や集落活動の維持、担い手不足、上下水道や保険制度の維持などが課題になると認識しており、人口規模に見合ったインフラ整備や業務の効率化を進めながら、生活の質の向上につながる施策を重視する。

農業では新規就農者支援やスマート農業、ブランド化や販路拡大、農業体験による交流人口・関係人口の創出を進める。

観光では自然や農村景観、スキー場などの地域資源を生かした体験型観光やグリーンシーズンの誘客、情報発信の強化に取り組み、地域経済の活性化を図る。

総務課長

集落ごとに状況が異なることから、今年度実態調査を実施し、地域ごとの課題を把握したうえで、住民とともに実情に応じた支援策を検討していく。

建設課長

除雪は20人体制で実施しており、新規オペレーターの育成や除雪機械の計画的な更新を進めている。

高齢者世帯への支援や地域で支え合う組織づくりの検討を進めるとと

もに、将来的には官民連携や広域連携も視野に、現在の除雪水準の維持に努める。

産業企画室長

空き家バンクやワンストップ窓口の設置により、この2年間で28世帯49人が移住した一方、空き家登録や賃貸住宅不足が課題である。

移住前後の生活のギャップを減らし、地域と移住者が互いに理解しながら定住できるよう、コーディネーター機能を強化していく。

産業課長

今後は、村の暮らしや農村景観など地域資源を生かした誘客と関係人口の創出に努める。



安心して暮らし続けられる村に



村民に寄り添った村政の展開を！

山崎 栄喜 議員



一般質問会議録

どうなる、道の駅ファームス木島平

質問

道の駅の現状と今後の方向性は。

村長

現施設の一部を解体するとともに、残された施設の一部を機能転換して、小規模な施設整備を行った上で、今後の事情に合わせて段階的に整備する。

質問

木島平村の米や野菜などを使用した加工施設を併設する方が、道の駅の魅力アップ、雇用の創出、特産品の開発が図られる。

指定管理者から売り上げに応じた納付金を徴収することとし、民間事業者から広く意見提案を求め、市場性の有無やアイデア等を把握するサウンディング調査、複数の候補者から具体的な企画や提案を募り、最も優れた提案者を採用するプロポーザルで運営事業者を募集できないか。

村長

設備投資や衛生管理、人材確保、採算性などの課題も伴うため、施設整備の必要性や運営主体、事業採算性、継続性などを十分に見極める必要がある。今後、ブランド再構築事業の中で、道の駅に段階的に取り込む機能に加えるか検討していきたい。



道の駅ファームス木島平の全景

集落の集会施設改修に補助を

質問

飯山市では、各区が行う集会施設の屋根・外壁等の修繕、照明器具等の改修、LAN整備、冷暖房

設備等に補助金を交付している。本村でも、補助制度の創設を。

建設課長

各区から要望が多くあれば検討する。

ゴミ袋記名廃止を

質問

個人情報保護のため、廃止できないか。

建設課長

5年前の調査で記名を求めているのは県内8市町村。今後、住民の意見を踏まえ、適正排出の確保やゴミの減量の推進効果と氏名以外の代替案を含めて検討する。

生涯学習の推進を

質問

村は、生涯学習計画を策定し、一人一花、一人一役、一人一ボランティア、一人一スポーツ、一人一趣味という5つのキャッチフレーズのもとに生涯学習を推進してきた。

生涯学習計画を策定してから25

年ほど経ち、世の中も大きく変化しているが、計画の見直しを行っているか。

生涯学習課長

平成29年4月に木島平村教育大綱を策定し、この中に生涯学習に関する計画について記述している。

また、教育振興計画の施策の展開に務めるとともに、新たな時代に対応した学習機会の提供など、活力ある村づくりにつなげていきたい。

質問

近年、スポーツや芸術などへの参加者が減少している。行政でも何か対策を。

生涯学習課長

①体験と交流の場の創出として、これまで関心のなかった層や定年退職を迎えたシニア層、子育て世代や移住者などが、気軽に活動に触れられるきっかけづくりとなるイベントを計画している。

②世代間交流と村民スポーツフェスティバルを開催する。小学校のふれあい体験活動では、ゲートボール、和紙作り、大工体験などを行う。



公務員の「予備自衛官等兼業特例法」に 対する判断はどうか？

山浦 登 議員



一般質問会議録

物価高騰から
村民生活をどう守るか

質問

中東情勢の影響による村民の苦しい実情を把握しているか。

村長

特に価格の調査等したわけではないが、物流コストや生活用品、食料品への価格転嫁により、生活に大きく影響している。村民応援券ということで対策を行っている最中であるので、その後の対策は、国の重点交付金等を併せて考えていく。

質問

国や県に関連の対策を求めることはできないか。

村長

昨年度から物価対策として、物価高騰対応の地方創生臨時交付金を交付して生活の支援をしている。今、国会では令和8年度の補正予算によるガソリンや電気代の補助が柱の自由度の高い物価高騰対応重点地域支援地方臨時交付金が審議されている。それらを財源として村民生活支援策を検討していきたい。

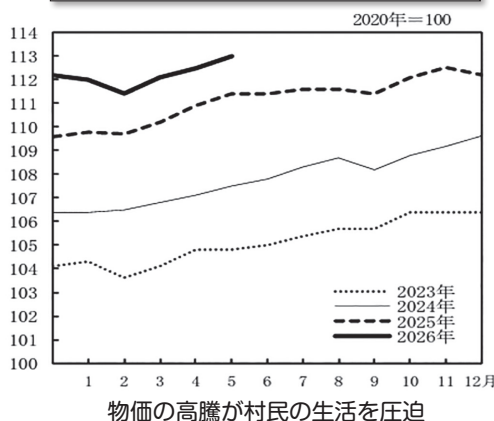
質問

今回の物価高騰が従来と異なる点は、単に物の値段が高いということだけではなく、資材が不足しているということで、より深刻である。財政調整基金等で村民支援ができないか。

村長

村民応援券ということなので対策を行っている最中であるが、その後の対策については国の重点交付金等を併せて考えていきたい。

生鮮食品を除く総合指数の動き



出典：総務省統計局
「2020年基準消費者物価指数
全国2026年5月分」

物価の高騰が村民の生活を圧迫

予備自衛官等兼業法を
どう考えるか

質問

政府が国会へ提出した「予備自衛官等兼業特例法」が衆議院安全保障委員会で審議され、可決された。この法案の問題点は、訓練のために必要な任命権者の許可が1回だけで済む。訓練期間中の職員の職務専念義務が免除される。年5日または30日の訓練で有事や災害で招集され、後方支援や警備も行うとしている。その法案の背景は、軍拡政策により自衛隊の慢性的な隊員不足解消と予備自衛官の安定的な確保が目的である。応募は本人の志願となっているが、隊員不足解消のため、公務員から民間団体、さらに徴兵制へとつながるのではと懸念されている。村の自治に重大な影響をもたらすこの法案をどのように判断されるのか。

村長

今回の改正は、本人の意思、希望である。これまでも大規模災害に際しては、他の職員がカバーをしなから職員の派遣等を行ってきた。そも

そも、一朝有事の際は、地方自治体の通常の行政が行われる場合と場面が違うのかなと考えている。

教育長

法改正によって、地方自治の本旨や教育委員会が持つ職員の任命権、管理権が不当に制限されるものであつてはいけないと考えている。

質問

自治労（自治体労働者の労働組合）は、国の防衛政策に基づく防衛省の組織的都合によって、公務員の服務と労働環境を歪める本法案に断固反対と表明。私も本人の意思とはいえ、自衛隊という特殊な軍事的組織に村職員が関わることは賛成できない。心情的にも信頼している職員の皆さんに危険が及ぶことに絶対反対する。

村長

国民の生命と財産を守るのが国の大きな責務であり、一朝有事の際に公務員だからそうでないからという区分けはないだろうと考える。

このほか

一般会計予算編成の疑問点について質問しました。



憲法改正は必要か、 内容をみんなは理解しているか

関 達夫 議員



一般質問会議録

憲法公布80年の今年は改正をしなくてはならない時なのか

質問

高市総理は先の選挙の結果を得て憲法改正に意欲を示している、国防予算は米国の要求がGDP比で2%、10兆円となっている。どこまで増額するのか、専守防衛の為だけなのか、これは近隣国に対して脅威と受け取られる。また、武器も輸出できるようになり、非戦国としての誇りはどうしてしまったのか、憲法は戦前の反省を生かし、国家の恣意的な権力の濫用を国民の手で縛るものであると理解する。改憲論が活発になり、国民投票が行われようとした時の各自判断はどうなるのか、大丈夫か、考えの準備は必要である。

① 平和の象徴と言われる憲法だが、「9条の改正」についてどのように考えるか。

② 国民投票の判断材料をどう提供するか。

村長

① 防衛の定義、自衛隊の位置づけが

曖昧だ、改正の必要性については他に方法があるのかどうかによる。

② 仮の話として一人一人が国民の立場で判断すべきこと、判断材料は提供するべきでないと考える。

生活環境保全コストは適正に

質問

八潮市では下水道に起因する大規模な道路陥没事故が起きたが、当村は大丈夫か。令和6年度村の下水道事業の決算分析によると、浄化センターの長寿命化を図るため、設備更新工事を優先的に進めており管渠更新は無しとの事。また上下水道の料金は管理運営上の貴重な財源であり、利用者から確実に公正に徴収されなければならぬ。重要なインフラだからである。

① 下水道管渠は使用開始から30年経過しているが、老朽化の状況や整備度は。

② 上下水道使用料の未収金状況は。

③ 現在基本13ミリのパイプ、20mの使用で月額8074円で、近隣市村と比較しても同額程度で

ある。人口減少、戸数減少で今後徴収料金が少なくなる。村の一般会計からの繰り入れも多額である。今後使用料金の値上げはあるのか。

④ 農業集落排水事業の対象者の減少で、経営分析では大きな赤字となっている。今後の事業運営の考えは。

建設課長

① 管渠延長78・2kmの内95%は耐用年数50年の管材を使用し老朽化に至っていない。5年ごとの点検が課され、実施しており、適正である。

② 4月30日で、8件・108万円ほどとなっている。金額の多い滞納者について

は誓約書を交わし、一定額の納入をいただいている。滞納者が出来ないよう努める。

③ 令和2年に



下水道浄化センター

改定をしたが、諸物価の値上り、維持管理費の増加などを踏まえ検討したいと考えている。

④ 利用者の動向を踏まえ、別の処理方法も視野に検討したい。料金については村内同額とする。

奨学金貸付制度は誰の為か

質問

村の奨学金貸付制度は、子どもたちに学ぶ機会と経済的な支援を行うことを目的としている。しかし、この貸付の条項、内容、貸出審査に極めて不備がある。ことお金に関しては貸す側、借りる側に高い意識付けが求められるものであるが欠けている。

この奨学金貸付制度は廃止し、厳しい条件を付してでも給付型の奨学金制度として実施し学ぶ機会を支援しないか。

村長

難しいと思う、生活の援助費となるもので、村民の皆さんの理解は得にくい。奨学金の返還に対して一部村が支援する制度もある。

議員報酬改定に向けた要望書を提出しました



7月7日、勝山議長が日墓村長へ議員報酬改定に向けた要望書を手渡しました。村議会では令和5年の選挙で初の欠員が生じるなど、議員のなり手不足が課題となっています。議会の活性化や持続可能な村づくりには多様な人材の参画が不可欠です。なり手不足解消のひとつとして、30年以上据え置かれている報酬の改定を求めています。全国町村議会議長会の議員報酬の金額の見直し方法に基づき、議員の月額報酬を20万円とするよう要望しました。

次回定例会の開催予定

9月議会定例会 ※現時点での予定です。

開 会 日 8月27日 (木)
一般質問① 9月 2日 (水)
一般質問② 9月 3日 (木)
閉 会 日 9月15日 (火)

請願・陳情の受付締切日

8月12日 (水) 午後5時
議会事務局へ直接お持ちいただき、事務局員に説明をお願いします。



定例会・臨時会の会議録は、 どなたでもご覧いただけます

会議録は、定例会・臨時会の本会議記録を載せています。
次の場所・方法で閲覧できます。

- 役場2階の議会事務局での閲覧（平日午前8:30～午後5:15）
- 村公式ウェブサイトに掲載

木島平村 で検索して、次のように進んでください。

公式ウェブサイト（トップページ下段）の

木島平村議会 ▶ **会議録**

※3月定例会会議録は、現在作成中のため次回定例会までに掲載予定です。

議会だより 編集委員

委員長 江田 宏子
副委員長 山本 隆樹
委 員 山浦 登
関 達夫
湯本 直木
湯本 行浩



ちょっと
いっぶん

議員の
ひとりごと

議員になって7年。当初、人前で話すことが苦手で緊張のあまり声が震えた。思案の末、飯山正受庵での座禅会に参加することにした。呼吸の際、特に吐く時、意識を集中すると不安が払拭すると指導され、実践すると回を重ねることに気持ちが落ち着いてきた。

50余年前、夜学へ通い国会衆議院でエレベーターボーイをした時のことである。当時は国会の団十郎の異名をとる佐藤栄作総理の時代であった。同僚7人のうちの一人の先輩から「議員が乗ってきた時、御苦労様と言うように」と言われ従った。数日後、「国会議員への挨拶としては不適切」とのこと係長より中止の指示が出された。

たかが挨拶とはいえ、人との会話や発言は、時と場合、相手によつては誤解や不快感をもたらす。特に議会での議員の一般質問や発言は重い。過去の経験を心に留め、落ち着いて「節度ある発言・道理ある提案」に心がけている。

山浦 記